



特集

全身性エリテマトーデスとその診療の進歩について



丹生酒殿神社の銀杏(伊都郡かつらぎ町)

CONTENTS

Topics

- 遺伝外来について
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024 わかやま
- セカンドオピニオン外来について
- 紺綬褒章伝達式を執り行いました
- 後払いなら、待ち時間ゼロ!
- ボランティアの活動について

Information

- がん専門医療人と地域との連携における課題
- 肺扁平上皮がんの新たな予後因子を発見

【理念】

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切に、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

全身性エリテマトーデスとその診療の進歩について



和歌山県立医科大学附属病院
リウマチ・膠原病内科 教授

藤井 隆夫

全身性エリテマトーデス(SLE)とは

世の中には無数の病気があります。高齢になると、動脈硬化が進んだり癌にかかったりするなどして何らかの病気を持つことが多くなりますが、一方で、若い人の方が多くかかってしまう不思議な病気があります。その代表的なものが「全身性エリテマトーデス(systemic lupus erythematosus, SLE)」です。厚生労働省は「指定難病」(現在341疾患)を定めています。SLEは古くからこの指定難病に認定されています。心筋梗塞や癌といった病気とは異なり、「原因がわからない」「定まった治療法がない」「持続的な治

療を要する」などの理由で、SLEは特別な取扱いがなされているのです。私は大学卒業時にSLEに特に興味を持ち、この病気の研究をしてみたい、また、この病気と長く関わっていきいたいという思いからリウマチ・膠原病内科医になりました。私と同年代のリウマチ・膠原病内科医の先生の多くが同じ思いであったと思います。今回はこのSLEについて少しお話をしたいと思います。

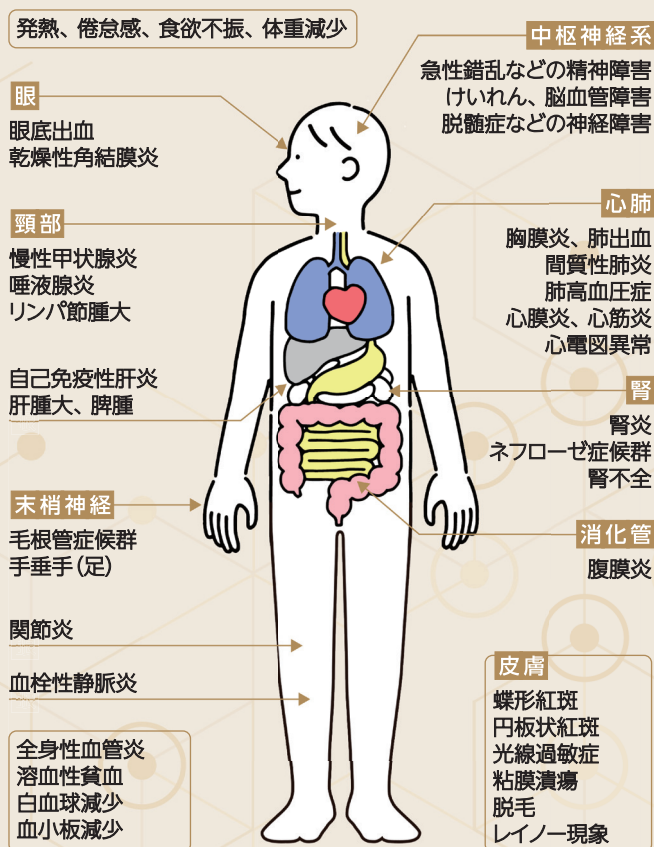
「膠原病」とは? 「SLE」とは?

膠原病と聞いて、直ちにイメージできる患者さんは少ないのではないのでしょうか。「膠原病」とは、「膠原線維が悪い病気」というところから名づけられたのがきっかけですが、現在は「全身性自己免疫性リウマチ性疾患」と世界的には呼ばれています(余計に分かりにくいかもしれませんが…)。すなわち、一つの臓器のみではなく「全身に症状が起こり」(図1)、「免疫の誤作動(自己免疫)」によりあちこちが痛くなったり(リウマチ性疾患)、皮膚の症状が現れたりする病気です。では免疫とは何でしょうか?

私たちは日頃いろいろなものを食べたり飲んだり、また触ったり吸い込んだりしますが、異物(例えばウイルスやカビ)が体の中に侵入してきた場合、多少の時間はかかったとしても、それらを無意識のうちに排除できる機能が「免疫」です。例えば、コロナのワクチンを打つと、コロナウイルスに対する免疫ができるため感染してもからだは重症化せず、ウイルスを退治できるようになります。しかし膠原病の患者さんにおいては、免疫が誤作動し、本来自分の体の成分である蛋白質を誤って異物と認識し、攻撃してしまうのです。SLEでは、この免疫の誤作動が何種類も体の中で起こるために、いろいろな症状が現れる病気と言えます。なお、SLEは、癌とは異なり、良性(炎症性)の病気です。

(図1) 全身性エリテマトーデスで注意すべき臨床症状

(田中良哉:「全身性エリテマトーデス」[からだの科学]256号2008より引用改変)



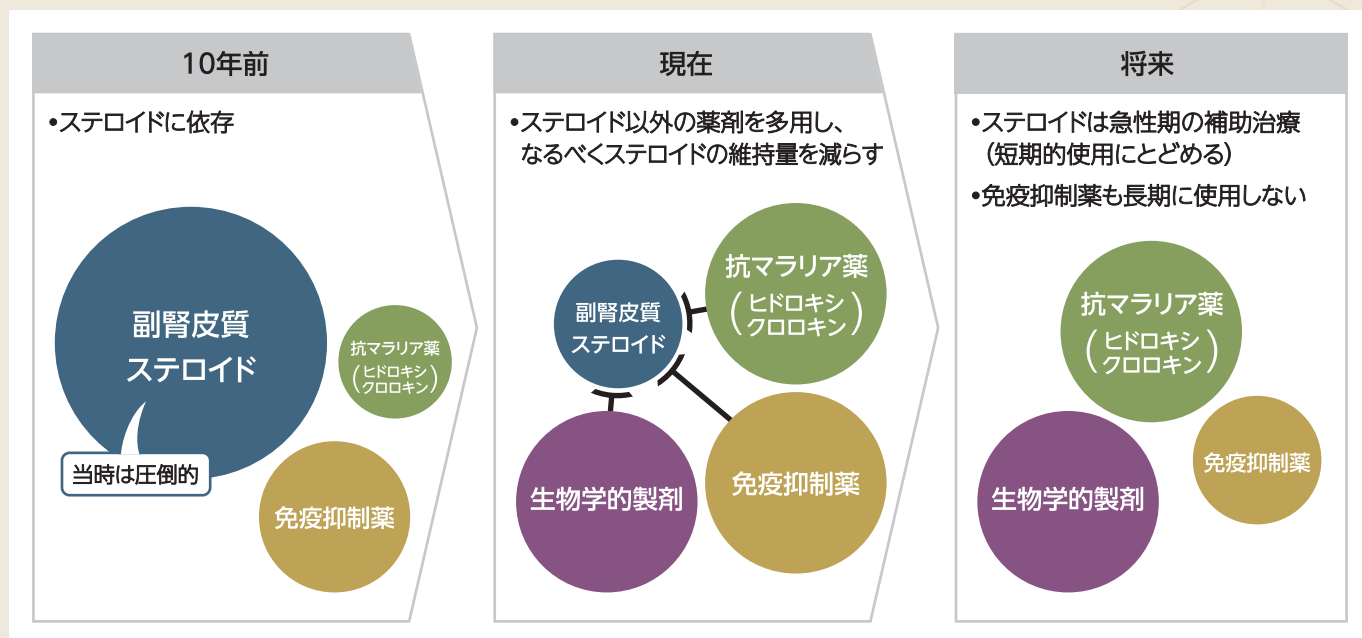
SLEの治療について

SLEは「膠原病」の代表的なものですが、昔(30年ほど前)はステロイドに加えて一部の免疫抑制薬しか薬がなく、また病気の知識も乏しかったために、十分な治療効果が出ないばかりか副作用が強く出て、患者さんは大変な苦勞をしていました。

しかし、時代は変わり、ほぼステロイドのみであった治療から、今は「**ステロイドは必要なおきのみに使用する**」という位置づけに変わりつつあります(図2)。腎臓や神経に障害が起きてしまったときには、ある程度

ステロイド治療が必要ですが、その場合でも抗マラリア薬(ヒドロキシクロロキン)や免疫抑制薬、生物学的製剤などを併用することにより、ステロイドを極力少なくするような治療が一般的になっています。特に生物学的製剤は、SLE患者さんの体の中に増えてしまった悪玉の免疫細胞や蛋白質を特異的に阻害することにより、SLEの体質を補正できるポテンシャルを有していると想定されています。

(図2)全身性エリテマトーデス治療の変遷



【専門医からのメッセージ】

SLEの治療では、ステロイドを同じ量で漫然と服用する時代は終わったと言えます。毎日のステロイド服用量は少しでも減らせるよう医師と相談を。また、生物学的製剤や新規薬剤の必要性を膠原病専門医と相談・検討しましょう。



【専門医からのメッセージ】

急性期を除いてステロイドの服用は対症療法に近く、必要以上に長期間服用すると、老化を進めてしまうことを認識しましょう。



遺伝外来について

当院では、平成28年1月から遺伝外来を開設しております。

現在は完全予約制にて、月曜日から水曜日までの午前中、臨床遺伝専門医3名と認定遺伝カウンセラー3名、公認心理師1名により、疾患の遺伝カウンセリング、遺伝学的検査、診断を実施しています。

対応している疾患は、腫瘍から出生前診断まで多岐に渡ります。疾患には、染色体や遺伝子の変化によって引き起こされる遺伝情報の変化がさまざまな程度で関係していることがわかっていきます。これら遺伝子の変化を診断することで、疾患の

確定診断や治療に繋ぐことができます。遺伝子の変化は親から子に引き継がれることがあり、ご心配になることもあると思います。そんな時はじっくりとお話を聞かせて頂き、遺伝学的検査をすることのメリットとデメリット、検査を受けないという選択肢もあることなど、判断のサポートを行っています。例えば、遺伝性の疾患が疑われる、診断はついたが子供達への影響を知りたいなど、お困りのことがあればご相談ください。

認定遺伝カウンセラーの資格取得から今年で10年、和歌山医大に勤務して3年が経ちました。まだまだ知識不足、経験不足なところがありますが、今までの経験を来談された方に還元できるよう努めます。遺伝について聞きたいという際は、お気軽にご相談ください。

大阪で助産師をしていましたが、昨年からは遺伝カウンセラーとして働き始めました。

どんなに小さな気かりでも一緒に考えたいと思いますので、まずはお気軽にご相談いただければ嬉しいです。

遺伝医療を必要としている患者さんやご家族の不安や悩みなどを伺いながら、医師やその他医療スタッフとともに悩みや問題を解決できるよう支援しています。いつでもお気軽にご相談ください。



お問い合わせ先 | 073-447-2300 (代表電話) から遺伝外来へご連絡ください。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024 わかやま

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024 わかやま」が令和6年7月6日(土)・7日(日)、和歌山城砂の丸広場で開催されました。

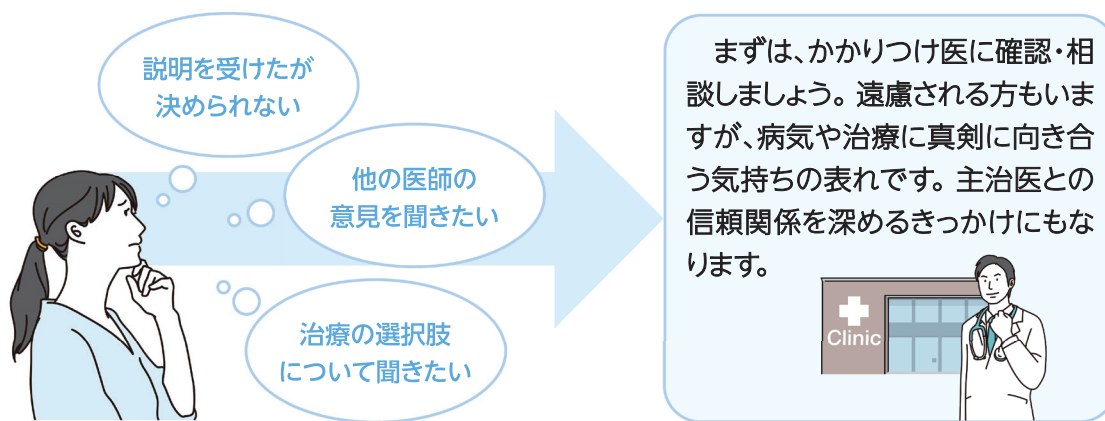
リレー・フォー・ライフとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動です。

和歌山県がん診療連携協議会の一員として、がん相談支援センターが相談ブースを出展するとともに、「がん患者は24時間闘っている」という想いを共有するため実施されたリレーウォークにも参加しました。



セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオンとは、患者さんが診断や治療選択などについて、現在診療を受けている担当医とは別の医師に求める「第2の意見」のことをいいます。セカンドオピニオンを聞くことにより、ご自身で納得して治療を選択し、受けるための参考にすることができます。



当院では **対面** に加え、**オンライン** でもセカンドオピニオンを受けていただけるようになりました。

■ 当院でのオンライン・セカンドオピニオン外来について

2024年7月から、「遠隔医療支援システム」を使用し、当院にご来院いただくことなく、当院と連携している和歌山県内の医療機関からオンライン・セカンドオピニオンを受けていただくことができるようになりました。電子機器の操作に不慣れな方でも安心して受けていただけます。



※遠隔医療システム設置医療機関、オンライン・セカンドオピニオンの対応診療科・疾患についてはホームページでご確認ください。



■ 予約方法

予約時間	平日の午前9時から午後5時まで
予約方法	受付専用電話番号: 073-441-0824
受付窓口	患者支援センター

電子メールでのお申し込みは受け付けておりません。

■ 相談時間及び料金

相談時間は45分間で、画像診断に要する時間も含まれます。

料金はオンラインの場合は、**45分あたり18,140円(税込)**です。遠隔医療支援システム使用料を含みます。

対面の場合は、**45分あたり15,140円(税込)**です。**全額自己負担で、健康保険の適用はありません。**

※セカンドオピニオンを上手に活用しましょう。ご連絡をお待ちしています。

紺綬褒章伝達式を執り行いました

本学では、医療系総合大学として一層の発展を目指し、和歌山県立医科大学青洲基金を設置しており、この度、卒業生の井上千津子様から多額のご寄附をいただきました。

この事績により紺綬褒章(※)を受章され、令和6年8月1日に中尾理事長から褒章、章記の伝達を行いました。井上様から、和歌山県の医療の発展を期待するといったお言葉を頂戴し、その後、終始和やかな雰囲気でご歓談が行われました。

いただいたご寄附は、教育研究の向上事業に有効に活用させていただきます。

※公益のために多額の私財を寄附した方に対し授与される国の褒章です。



▲井上千津子様(左)と
中尾直之理事長(右)



▲紺綬褒章

後払いなら、待ち時間ゼロ!

会計待ち時間短縮のため、スマートフォン登録による外来医療費後払いサービスを導入しています。

お持ちのスマートフォンでQRコードを読み取っていただき、病院外来アプリ「Sma-pa(スマパ)」をインストールして、2階総合受付⑨番窓口^⑨に設置している専用端末で診察券をご登録ください。

以降は、診察終了後に⑨番窓口設置の専用端末にスマートフォンをかざして受付をするだけで、会計を待つことなく、そのままご帰宅いただけます。なお、外来医療費は当日の夜クレジットカード決済されます。

待ち時間ゼロの便利なサービスです。ぜひご利用ください。

※過去の未払いや使用される保険、公費負担医療費制度等により、後払いをご利用できない場合があります。
※外来医療費後払い分の領収証、診療明細書は当院では発行できません。アプリ内でご確認ください。



Sma-paアプリの
ダウンロードは
こちらから

ボランティアの活動について



当院では、「和医大ボランティアの会」登録メンバーが外来や病棟で患者さんのサポートを行っています。従来から活動している外来案内に加え、感染対策のため活動休止中であったピアノボランティア、アロマボランティアの活動がこの夏から再開しました。

ピアノ演奏は、病院2階にて月4回活動を行っており、演奏予定日時をピアノの前に掲示しております。

また、アロマボランティアの活動については、緩和ケア病棟にて、アロマセラピストのボランティアさんによるハンドトリートメントを実施しております。

当院では現在、外来案内を中心にボランティアさんを募集しております。

申し込み・ボランティアに関するお問い合わせは、事務局医事課までご連絡ください。



TEL(代表)

073-447-2300

和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン 市民公開講座

がん専門医療人と地域との連携における課題

- 開催日時 令和7年1月25日(土) 13:00~15:30 (12:30開場)
- 開催方法 ハイブリッド開催 (Zoom及び現地)
- 現地会場 和歌山県立医科大学
高度医療人育成センター 5階大研修室

■講演 「在宅医療における
がん患者支援の現状と課題」

ユニバーサルケア株式会社
あるふぁ訪問看護ステーション代表
がん看護専門看護師

ながお あつこ
長尾 充子 先生



参加無料

どなたでも
ご参加いただけます

※この他、シンポジウムも開催

参加方法

「Zoomでの参加」「現地での参加」いずれも事前の参加申込は不要です。

※ただし、現地参加希望で 手話・要約筆記・その他配慮が必要な方は、メール、FAX、ハガキのいずれかに
①氏名、②電話番号、③配慮が必要な内容 をご記入の上、1月15日(水)までに下記の連絡先までご連絡ください。

Zoom
参加の方

右記のQRコードを読み込んでいただくか、
Zoomアプリもしくはブラウザからご参加ください。
■ミーティングID:951 0154 1797 ■パスワード: 210742

現地
参加の方

現地会場まで
直接お越しください。
キャンパスマップはこちら▶



【連絡先】公立大学法人 和歌山県立医科大学和歌山県立医科大学 経理課
〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1 TEL:073-441-0516 FAX:073-441-0706 メール:ganpro@wakayama-med.ac.jp

肺扁平上皮がんの新たな予後因子を発見

肺扁平上皮がんの発生は喫煙率の低下に伴い減少していますが、それでも肺がんの25~30%を占めています。がん抑制遺伝子であるp53(※)遺伝子はヒトのがんで最も多く変異が認められる遺伝子ですが、肺扁平上皮がんの予後とp53遺伝子の異常について一致した見解は得られていません。私達は変異型p53タンパク質が異常な凝集体を形成することに着目し、簡便なp53の免疫組織化学的検査によるp53凝集体陽性症例の抽出に成功しました。また、p53凝集体



▲記者発表する西辻准教授

を持つ肺扁平上皮がん症例は特に予後不良であること、p53凝集体がある種の化学療法に対する感受性に影響することも分かりました。この発見により今後、肺扁平上皮がんにおいて、p53凝集体を標的にした予後予測や抗がん剤耐性克服が期待されます。

この報告は、本学医学部生化学・西辻和親准教授、池崎みどり助教、熊本大学大学院生命科学研究部細胞病理学・菰原義弘教授、同呼吸器内科学・坂上拓郎教授、御任玲美医員、同呼吸器外科学・鈴木実教授、フランス国立科学研究センター・リール大学・内村健治研究ディレクターらの研究グループによるものです。

※p53…がん抑制タンパク質。様々なストレスに対する細胞応答の起点になることにより、がんの発生と進展を抑制する。

掲示板

予約センター からの お知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

■ ご予約の流れ

- 1 かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- 2 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- 3 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナンバーカード(保険証)・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- 4 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805
【受付時間】月・火・水・金・・・9:00～19:00
木……………9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489
【受付時間】月～金・・・8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、
上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

最新の医学・医療カンファランスのお知らせ

令和6年度第7回市民公開講座を下記の通り開催します。医学・医療に関する専門的知識は必要ありませんので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

- 開催日 令和6年11月14日(木) 14:00～16:00
- 会場 本学 紀三井寺キャンパス 図書館棟3階 研修室
- 内容 講演1:「ワクチン接種と検診で子宮頸がんは根絶できる」
講演2:「くすりの主成分って何?」

【申し込み・問い合わせ】

生涯研修センター TEL.073-441-0789
定員は先着30名まで
申し込み締切:令和6年10月24日(木)まで

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1.個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2.診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3.十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4.他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5.個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・景言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

- 1.適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2.医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3.治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4.すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5.当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
- 6.医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.70)

2024年10月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院
〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300
FAX 073-441-0706

ホームページアドレス
<http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>
「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



— 外来受付時間 —

- 受付時間:午前8時50分～午前11時30分
 - 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
 - 休診日:土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
2025年
1月です。